

岩手教区報

第401号
 立教189年5月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



真心つなぐ献血ひのきしん 献血推進委員長 小笠原敦子

日頃は、献血活動の上にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

令和になって新型コロナウイルス感染症の流行によって、外出を控える人、リモートワークをする人が増えました。それらの影響はいくらか回復してきているとはいえ、献血にも及んでいます。また高等学校で献血する「高校献血」も、その実施校は全体の約2割です。献血に最初に触れる機会が減ることで、さらに献血に足を運ぶ人が減ってきているのです。もともと若い世代に声かけをしていかなければ、と思います。

献血推進委員会では、血液事業の現状と課題を把握し、献血ひのきしんの推進に役立てるため年に一度(3月)、血液センターから講師を招いて「献血推進研修会」を教務支庁で開催しています。今年の質疑応答の一部を紹介します。

「今は学校で血液型の検査はされておらず、自分の血液型を知らない子が多い↓献血をすれば病院にいかずともその場で知ることができる」「採血車での献血は体重が少なすぎてできなかった↓採血車では全血献血なので体重制限があるが、成分献血では制限はあるが献血できる場合がある」「採血後具合が悪く

ぶりはじまる理。
 ②夫十分に、妻十分で、子(一)が授かり命がつながる理。
 ③人の心には二十一の悪しきがあり、それを払う理。かぐらぶとめで第三節が7遍ずつ3回つとめられることから『三七の理』とも言われる。
 ④三はたいしよく天・をふとのべ・くにさぶちの三柱の「お産」の理で、人間の生を意味し、七は七柱目のたいしよく天で切る理で死を表し、生まれてから死までの理、一生涯の理。
 ⑤あしきをはろうて(切る理)で七、たすけたまえ(つなぐ理)で三、三七の理。
 ⑥三日三夜の間宿仕込み、三年三月留りの三と、奈良初瀬七里の間に七日かかって産みおろされた、三七の理。
 ⑦サイコロの目の裏表を足すと7で3面(1と6、2と5、3と4)。サイコロは魔

なったことがある↓脱水症状。献血の前後水分を充分にとる。献血の前日は睡眠を充分にとることが大切(5時間以上)。「骨髄バンク登録について↓18歳以上54歳以下、採血車内でも登録できる」「輸血を受けたことがある人について↓自己血ではなく他人の血液を輸血したことがある人は今後、献血できない。(現在の検査法では検出できない未知のウイルス感染の可能性が考えられるため)もし献血した場合は速やかに血液センターに連絡する」等々。毎年参加者から献血(血液)について質問や意見が出され、直接血液センターの方に答えていただくので、とても有意義な研修会になっています。

血液は生きた細胞なので、長時間の保存はできません。ですから、多くの方の献血への協力が必要なのです(赤血球製剤の有効期間が採血後28日間、血小板製剤では採血後4日間)。自分の健康に感謝しつつ、人だすけのお役に立つ献血は、素晴らしいひのきしんです。

5月31日(日)には、教務支庁において「献血ひのきしん」を実施します。献血の他に講習会、バザー、出張販売などもあります。皆様のご理解とご協力をよろしく願います。

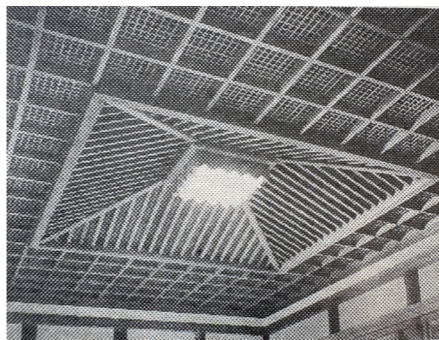
信仰随想
 誠心
 前岩手教区長
 加藤昌弘

「二十一の理」

世間でも21という数字にまつわる事柄がいくつもある。サイコロの目の数を足した数、願掛けの日数、カードゲームのブラックジャック(別名 twenty one)、卵からひなが孵る日数、そして国賓などが来日した際などの祝砲の数も21である。16世紀ころ、イギリス海軍は入港する艦船に対して、攻撃をしないということを示す意味から7発の空砲を打つことを求めた。(当時、艦船には最大7つの大砲しかなく、充填するにも時間が掛かったため)それに応え、迎える意味で21発撃つようになり、以来、歓迎やお祝を示す意味で、21発の祝砲を発射するようになったと聞く。

さて、おつとめの第一節が21回であることについては、諸説ある。

①逸話篇一七三「皆、吉日やで」の中の二十一日の理にあるように、十分たつ



天窓に向かって四方から
 ついているものが上り竿ぶち
 (かんろだい物語より引用)

除けに使われていたことから、悪しきを払う理。
 ⑧七は切る理で、一人の命は限りある「非連続」なるもの。一方、三はつなぐ理で、命は有史以来、夫婦によってつなぎ続いてきた意味で「連続」なるもの。「非連続」の「連続」で、連続と続く人間の生命を表す三七の理。
 ちなみに、真座(かんろだい)の天井部分の天窓の上り竿ぶちも21本です。

行事予定 5月分

日時	6月28日(日) 9時
会場	29日(月) 12時 おおのキャンパス (九戸支部・洋野町大野)
内容	草刈り、伐採などの緑地整備

災害隊教区訓練

- 1日 役員会議(10時)
- 9日 少年会例会(18時)
- 10日 学生会新入生歓迎会(10時)
- 16日 婦人会例会(10時)
- 教職員の集い役員会(13時)
- 青年会移動キャラバン(13時~17日)
- 31日 献血ひのきしん(9時)

現地参加2人)、担当者5人が参加した。今回、東北ブロックとして初めて合同バス団参を企画した。青森教区を始発とした大型バスと秋田教区を始発としたマイクロバスを共同運行し、道中を含め宿舍も同じくし、東北につながる学生たちが共に過ごすおちばがえりとなった。

26日昼過ぎに青森教区を出発。岩手教区、宮城教区、福島教区が乗車し、新潟で秋田教区、山形教区と合流。大型バス



立教189年3月28日、本部中庭にて「みんなで勇んで、みんなでつくる、優しさで笑顔あふれる大会を」をテーマに「教祖140年祭学生おちばがえり大会」が開催され、岩手教区から学生13人(内

参加報告

「教祖140年祭 学生おちばがえり大会」



学生担当委員会



献血推進委員会

「献血ひのきしん」【5月31日】

今年の「献血ひのきしん」は5月31日(日)、教務支庁を会場に実施します。当日は、採血車を配車していただき、献血者30人を目標にしています。また、近隣住民にも呼びかけ、献血以外にも参加しやすいような企画を用意していますので、県内各地から多数の参加をお待ちしています。

- ◆ 献血受付 9時～12時
※近隣の方、または遠方からの参加者を優先する場合があります。
 - ◆ 講習会 10時～11時
①「家庭で役立つ救急法 く子どもからお年寄りまで」(日赤講師による講習会)
 - ◆ バザー 11時～12時30分
 - ◆ 出張販売 11時～12時30分
・レジュイール「パン」
・紫波酒造「清酒」「甘酒」
・昼食 講習会終了後～12時30分
・うどん一杯100円
- この機会にぜひご来庁ください。

講習会 10:00~11:00
テーマ「家庭で役立つ救急法～お年寄りから子供まで～」
急な出血、骨折の対処法などについて学びます。参加費無料です！ぜひこの機会にご受講ください。

バザー 11:00~12:30
県内から選りすぐりの物を集めました。毎年、好評いただいています！

出張販売 11:00~12:30

清酒・甘酒の販売 【紫波酒造店(紫波町)】
広く(廣く)喜ばれる酒をモットーに、代表銘柄「廣喜・紫田」を展開。甘酒は「飲む点滴」と言われ、夏場の食欲増進や体調改善に効果があります。これからの季節のお伴にいかがでしょうか？
ホームページ→

パンの販売 【Réjouis「レジュイール」(盛岡市)】
Réjouis(レジュイール)とはフランス語で「喜ばせる、楽しませる」という意味。メディア出演多数で、どのパンも美味しさは折り紙付き！お店は、前潟イオンの近くで営業しています！
Instagram→

うどん
もふるよ！
講習会終了後～12:30 (一杯100円)

◎収益金は、日本赤十字社に寄付させていただきます。



青年会

「春のあらきとつりよう合宿」報告

教区青年会は、4月11日(日)、教務支庁を会場に「春のあらきとつりよう合宿」繋がる信仰と仲間(教理勉強会)を開催し、青森、秋田、岩手の教区青年会員ら12人が参加した。

に乗り合わせた学生たちは、翌朝おちばに到着した。

27日は現地参加者も合流し、午前は東北ブロック内の親交を深める行事に参加。午後は学生からの提案でおつとめ練習と神殿案内を行った。夕づとめ後、西泉水プール前広場の『春Fes』に参加。会場では飲食を伴う模擬店が出店され、特設ステージにおいてはダンスやバンド演奏などが披露された。

28日、快晴のご守護のもとで執り行われた式典では、「よろづよ八首」奉唱のあと、武田直也実行委員長のあいさつに続き、真柱様よりメッセージ(代読)を頂戴し、日々頂戴しているご守護に感謝し、やさしい心で人だすけのできるようぼくへと成人していくことを誓い合った。最後に、大会イメージソング「やさしい心」を中庭で歌い、式典は終了した。

式典後、各直属に分かれて「直属ア



学生会新委員長紹介



新委員長 仲川 春佳
(新潟大 吉井分)
新委員長としての今後の活躍を祈ります。
(4月1日付)



ホクホク東北陸・北海道交流会

ワー」が開催され、夕方には「ホクホク東北陸・北海道交流会」に参加し、他教区との親睦を深めた。その後帰路についていた学生たちは、次回東北ブロックでの活動で再会すること誓い合い、別れを惜しみながら解散となった。

はじめに門間道明・門盛分教会長(道の教職員の集い代表世話人)の講話があり、その中で、「10年程前から、近所一人暮らしされている高齢者の支援を夫婦で続けてきたことは、地域活動を進める上で大切な礎になった」「三原典と教祖のひながたを正しく学ぶことが信仰生活には特に重要」と話され、参加者それぞれが、信仰や地域活動についての思いを新たにさせていただいた。

続いて、今年度の青年会基本方針『心を澄ます毎日』について、2月の青年会本部例会における中山大亮青年会長様、宮内元浩青年会本部委員長からビデオメッセージをそれぞれ視聴した。その後、2班にわかれて練り合いを実施し、活発で勇んだ発言が相次ぎ、有意義な時間となった。

その後の懇親会では、教区の垣根を越えて大いに親睦を深め、翌12日(日)早朝、教務支庁周辺の幸せ拾い(ごみ拾い)を行い、朝食後解散した。

